（別記様式第３号）

普及活動検討会実施報告書

亘理農業改良普及センター
実施月日：令和８年10月２日
実施場所：亘理農業改良普及センター会議室

１　検討内容

No	検　討　項　目
1	プロジェクト課題の取組状況について (1)　いちご新規就農者の地域定着による生産技術向上と経営管理能力の早期習得 (2)　下余田Ⅱ期地区におけるほ場整備事業を契機とした営農体制の構築 (3)　土地利用型法人における組織運営の安定化に向けた担い手育成

２　検討委員の構成

（単位：人）

区　分	人数	区　分	人数
先進的な農業者	1	生　活　者	－
若手･女性農業者	－	学識経験者	1
市　町　村	4	マスコミ	－
農業関係団体	1	民間企業	－

３　委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
検討課題１（いちご新規就農者の地域定着による生産技術向上と経営管理能力の早期習得）について	4.4	・「いちごの部屋」は良いと思うので回数を増やしてみてはどうですか。 ・対象者を１ケ月１回以上巡回支援する取組は評価できます。 ・既存栽培方法にとらわれず、新しい栽培への取組も評価できます。	・ご評価ありがとうございます。今後も「いちごの部屋」開催を計画しております。
		・新規就農者への技術指導・支援だけでなく、新規就農者と地域営農者の関係づくりを技術指導の形式で行っていることが評価できる取り組みである。作物に関わることであれば積極的に参加しやすいこと、指導によりお互いの営農に関する考え方などが見えやすいことなど、良い点が多いと思われるので、プロジェクト期間に関わらず継続していただきたいと思います。	・今後も技術指導に加え、新規就農者と地域農業者との関係づくりに貢献できるよう取り組んでまいります。
		・巡回の栽培指導支援や地域の生産者の協力による「いちごの部屋」の開催で地域とのつながりが生まれ、情報交換した内容が栽培技術の向上につながっていることは、評価します。引き続きよろしくお願いします。	・独りにならず、地域農業者に助けられながら技術を身に着けていただき、将来は就農者自身が助ける側に回れるようともに歩んでまいります。
		・新規就農者の早期の技術レベルアップが収益にも関わり、や	・今後も巡回指導や「いちごの部屋」などを通じて支援してま

		る気にも繋がると思うので、定期的な技術支援を継続してお願いします。	いります。
		・生産技術・経営管理の早期習得には、地域とのつながりは大変重要だと考えています。特に新規就農者にとって定着支援の取組は、離農防止や産地維持に極めて有効だと思います。今後は、単なる技術指導にとどまらず、就農後の中長期的な経営安定や資金繰り管理、地域との関係構築までの一体的な支援が安定経営には必要であると感じました。	・対象者が早期に生産技術と経営管理能力を習得できるよう支援し、またそれを加速するために地域からの助けをいただきます。そうすることで、対象者が地域に溶け込めるよう配慮いたします。また、経営計画の進捗管理や資金繰り計画についても支援してまいります。
		・いちご栽培農家は、近年増加状況にあり、引き続き栽培管理技術の向上を進めるとともに経営管理面でも安定化を図れる支援を進めること願う。	・今後も技術・経営管理面での支援を進めてまいります。
		・技術向上に寄与する機器や道具、資材等も比較させて選択できる様に指導してほしいです。	・特に「いちごの部屋」などで、先輩生産者からの情報や対象者相互の情報交換を利用しながら指導してまいります。
		・新規就農者が他地域からの定住化も図れる取り組みも必要か、検討が必要と感じます。	・関係機関と連携し、定住化についても支援してまいりますが、家庭の事情等で定住化できない対象者もおりますので、この件に関して力が及ばないことをご理解ください。
検討課題２（下余田Ⅱ期地区におけるほ場整備事業を契機とした営農体制の構築）について	4.0	・課題と取組は評価できます。 ・高収益作物に挑戦することは大変必要な事であり、評価できます。 ・えだまめや乾田直播実証ほでの生育･収量の比較検証により、法人の経営安定のため改善点が発見できたことも評価します。	・ご評価ありがとうございます。引き続き高収益作物（えだまめ）について支援してまいります。
		・えだまめの収穫ロスが高いので、ロスを下げる指導もお願いしたい。	・実証ほの機械ロスが多かった要因としては、収穫時に降雨があり、莢が機械に詰まったことや、濡れた葉と一緒に莢が外に吹き飛ばされたことが大きいと思われます。収穫時期の天候等を考慮しながら、安定収穫ができるよう支援してまいります。
		・担い手部会支援については、順調に取り組みができているということであれば問題ありませんが、えだ豆の状況を部会がどのようにとらえ今後につなげたいと思っているのかなどの紹介があれば、もっとわかりやすかったと感じております。	・今回の高収益作物（えだまめ）調査データを対象者に返却し、今後の栽培に活かせるよう助言してまいります。さらに、担い手部会に結果を報告するとともに、担い手部会だよりに実証ほ結果を掲載し、地権者等に活動状況を周知してまいります。
		・乾田直播試験も収支と合わせて教えていただければと思います。	・水稲乾田直播は、まだ、試作段階であり、栽培のポイントとなる発芽率向上と雑草対策に重点をおいて支援しております。栽培が安定した段階で、次のステップである機械導入や

			経営収支について支援してまいります。
		・新法人の設立支援により、設立時期が前倒しで進んでいることは、評価します。 ・法人設立については、課題を抱えつつも順調に進んでいるとのことであり、支援の継続をお願いしたいと思います。	・ご評価ありがとうございます。引き続き支援してまいります。
		・地域農業を支える担い手の経営の安定化を支えるうえで収支バランスの取れた指導と持続可能な支援をお願いする。 ・法人化をしたら、就業状況も農家（家業）より、従事者という立場は大変重要なことだと思います。 ・ほ場整備事業を契機とした営農体制の構築には、大区画化や汎用化を活かした土地利用型農業への転換、担い手への農地集積・集約化が不可欠です。また、地域の生産者や関係機関が一体となり、作付け計画の調整や共同利用施設の効率化、スマート農業の導入など持続可能な生産・経営体制について、常に話合いが出来る場を設けることは大変重要だと思いました。	・法人化された担い手に対しては、引き続き経営計画のブラッシュアップや円滑な法人運営を支援するとともに、効率的な生産に向けた支援を継続してまいります。
		・担い手の法人化も進み、ほ場整備の面的な工事も順調に進めば、農地の有効利用（集積・集約化）が一気に進むわけではないので、継続した体制確保と革新技術を取り入れた経費の省力化を図る支援策を求めます。	・ほ場整備事業の面工事が令和８年度から開始され、地権者においても事業の進捗をより身近に感じてくるものと思われます。引き続き、関係機関との連携のもと、事業要件の確認を行いながら必要な支援に努めてまいります。
検討課題３（土地利用型法人における組織運営の安定化に向けた担い手育成）について	4.3	・モデルになる事例なので評価できます。	・地域のモデル事例として、引き続き支援してまいります。
		・若手従業員の定着化、人材育成は、一朝一夕にはいかないところもありますが、経営計画を立て、それに向かって取り組むことは、他の法人でも有効な参考事例となるので、期待しています。	・担い手の育成・定着は、法人経営の安定に不可欠であると、重要性を認識しております。今後も巡回指導や関係機関との連携を通じて、課題に沿った効果的な支援が行えるよう引き続き取り組んでまいります。
		・営農継続性、資材の高騰、農地の有効活用等を図るため、法人と連携した課題解決に今後も期待します。関係機関協力のもと積極的な支援を進めていただきたい。	・岩沼市等の関係機関と引き続き連携することで、対象法人が直面する様々な課題解決に向けた支援が行えるよう取り組んでまいります。
		・生産法人の安定化・持続的経営には、計画的な人材育成と次世代への円滑な事業承継が不可欠だと思います。また、収益性の高い作目の選択やコスト管理による経営基盤の強化に加え、スマート農業の導入などによる省力化・効率化を進めることが必要と思います。その支援として、中期経営計画やキャリア形成計画作成支援等がうまくマッチングしていると感じました。	・生産法人の安定化・持続的経営に向けた計画的な人材育成や事業承継の重要性、さらに収益性向上やスマート農業導入の必要性についてのご指摘を踏まえ、引き続き支援を進めてまいります。また、年間事業計画を基盤とし、収益性の確保と経営基盤の強化を図るモデル経営体として発展いただけるよう、関係機関と連携しながら継続的に支援してまいります。

		・若手従業員の発案による取組については、今後の営農に大きな影響を与えるものとして非常に期待しております。全てが上手くいくわけではないと思いますが、地道な取り組みが若手のやりがいにつながり、営農意欲の向上から法人の強化へと結びつくものと思いますので、今後も支援の継続をお願いします。	・若手従業員から提案のあったねぎ栽培は、地域からの注目も高く、従業員のモチベーション向上にもつながっております。ご指摘のとおり、若手の主体的な取り組みが営農意欲の向上や法人の強化に結びつくことを期待しておりますので、引き続き生産指導に加え、収支状況を従業員自らが把握し事業成果を確認できるよう支援を行い、次のステップにつながる取り組みとなるよう継続して支援してまいります。
		・若い担い手が順調に育ってきているようなので、年配組とコミュニケーションを取りながら安定経営、さらには事業拡大に向けがんばっていただきたいと思います。	・組織内の円滑なコミュニケーションは、組織力の向上に重要であることから、引き続き、組織体制の整備を支援してまいります。
		・収支の向上はどの程度だったのかある程度知りたい。	・税理士等の専門家の助言を得ながら、経営状況の明確化を進め、収益の確保・向上につながるよう引き続き支援してまいります。
		・色々事情がおありと思いまいが、稼げる農業を目指して野菜（クールボジャメロン）を増産できれば良いと思います。	・特産品としての「林ライスのクールボジャメロン」は、年々評価が高まっており、地域でも評価が定着しつつあります。暑熱対策や適切な土壌管理等をさらに徹底することで、高品質・安定出荷を図り、さらなる生産量の拡大につながるよう引き続き支援してまいります。
		・年間スケジュールがわかりませんが、満遍なくスケジュールが回れば良いと思います。	・天候により作業調整が必要となる場合もありますが、年間作付計画の情報共有を徹底し、必要に応じて適切に修正・対応できるよう支援することで、安定した取組となるよう努めてまいります。
その他		・ねぎ栽培の現地ほ場見学は、参考になりました。山元町の沿岸部におけるねぎ栽培でも採用できるのか興味がありました。	・山元町の沿岸部におけるねぎ栽培という点では、（株）やまもとファームみらい野も参考になりますが、作土が砂壌土で肥料もちが悪い点や浜風による土壌の浸食などの課題があり、対策が必要と考えております。
		・令和８年度普及指導計画の概要のなかで、若手りんご生産者への支援が挙げられており、現在、山元町の地域おこし協力隊でりんご栽培に取り組んでいる隊員がいるので、栽培指導をお願いします。	・若手りんご生産者への支援は、山元町では山元町りんご組合及び鷲足果樹生産組合の親元就農者６人を対象に、現地検討会、視察研修、せん定講習会等を実施しています。今後は、地域おこし協力隊員に対しても参加を呼びかけ、栽培技術の習得や生産者との技術交流を支援してまいります。
		・いつもありがとうございます。	・今後もご意見、ご協力を賜りますようお願いいたします。